

問 障がい者の日常生活用具
品目の拡大は

2点の日常生活用具給付品目拡大を問う。①夜盲症や視野狭窄を伴う網膜色素変性症などの人へ、支援になる暗所視支援眼鏡を加えては。②停電や災害時には、人工呼吸器使用者は生命の危機に直面する。発動発電機人工呼吸器外部バッテリーを加えては。

答 ニーズを把握し最も
適した支援に努める

今後も日常生活用具給付等事業の適正な支給決定に努めるとともに、暗所視支援眼鏡は国や県、近隣市町の状況等を注視していく。また、発動発電機や外部バッテリーは、日常生活用具給付と防災対策の両面から検討を加え、当事者が安心できる備えを行っていく。



菱沼あゆ美 議員
(公明党)

問 避難を選択した人への
支援を



災害時の避難支援を3点問う。①避難所のたらい回し防止に、混雑状況をIT企業と連携し情報提供しては。②避難所利用が困難な障がい者や、ペット連れの人が車中避難できる駐車場の指定をしては。③避難所での、特に食物アレルギー疾患に対する配慮などの取組は。

答 避難支援の充実に向けて
取り組んでいく

避難所混雑状況可視化については、運用状況を確認したうえで導入を検討していく。また、駐車場については、一時避難場所の選択肢の一つとして確保を検討していく。食物アレルギーについては対応食品の備蓄、配慮を要する内容について周知していく。

問 『スマホ脳』対策を

スマホにより脳の成長が阻害される。スマホが近くにあるだけで集中力が阻害され授業に集中できなくなる。乳幼児の保護者や学齢期の子どもたち・保護者・教員などに危険性を啓発していくべきではないか。

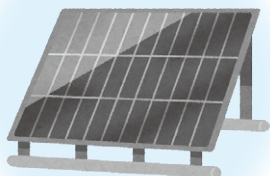
答 様々な機会を利用し
周知啓発に努める

母親・両親学級の中では乳児期の愛着形成の大切さを、各乳幼児健診時には、親子のふれあいの大切さを周知啓発している。学校教育では、児童生徒及び保護者に対して、「白岡市子どものネット利用宣言」を活用しながら、健康面への配慮を含め啓発をしていく。



斎藤信治 議員
(WAKABA)

問 地球温暖化(気候変動)
への対応を



2050年までにカーボンニュートラルを実現することが求められている。RE100を実現できる環境整備、RE100を目指す企業の支援や、ソーラーシェアリングの推進などとともに、次期総合振興計画に方向性を明記し、地球温暖化に対応すべきではないか。

答 脱炭素社会に向けた
施策を着実に進める

事業者等の環境負荷低減への取り組みに対する支援策について検討していきたい。

第2次白岡市環境基本計画に基づき再生可能エネルギー機器の導入や活用、再生可能エネルギーの調達に努め、脱炭素社会に向けた施策を着実に進めていきたい。